



福井大学

University of Fukui Campus Master Plan 2018

概要版

1 キャンパスマスタープランについて

■作成の目的

本学の理念、教育・研究・医療及び社会貢献等における目標を具現化するアカデミックプラン(大学の基本的な目標)に基づき、大学キャンパスにふさわしい施設環境の整備と持続的維持・運用は、継続的に実施すべき重要な経営課題であり、それを効率的、かつ戦略的に推進する為に『キャンパスマスタープラン』の策定は欠かせないものである。

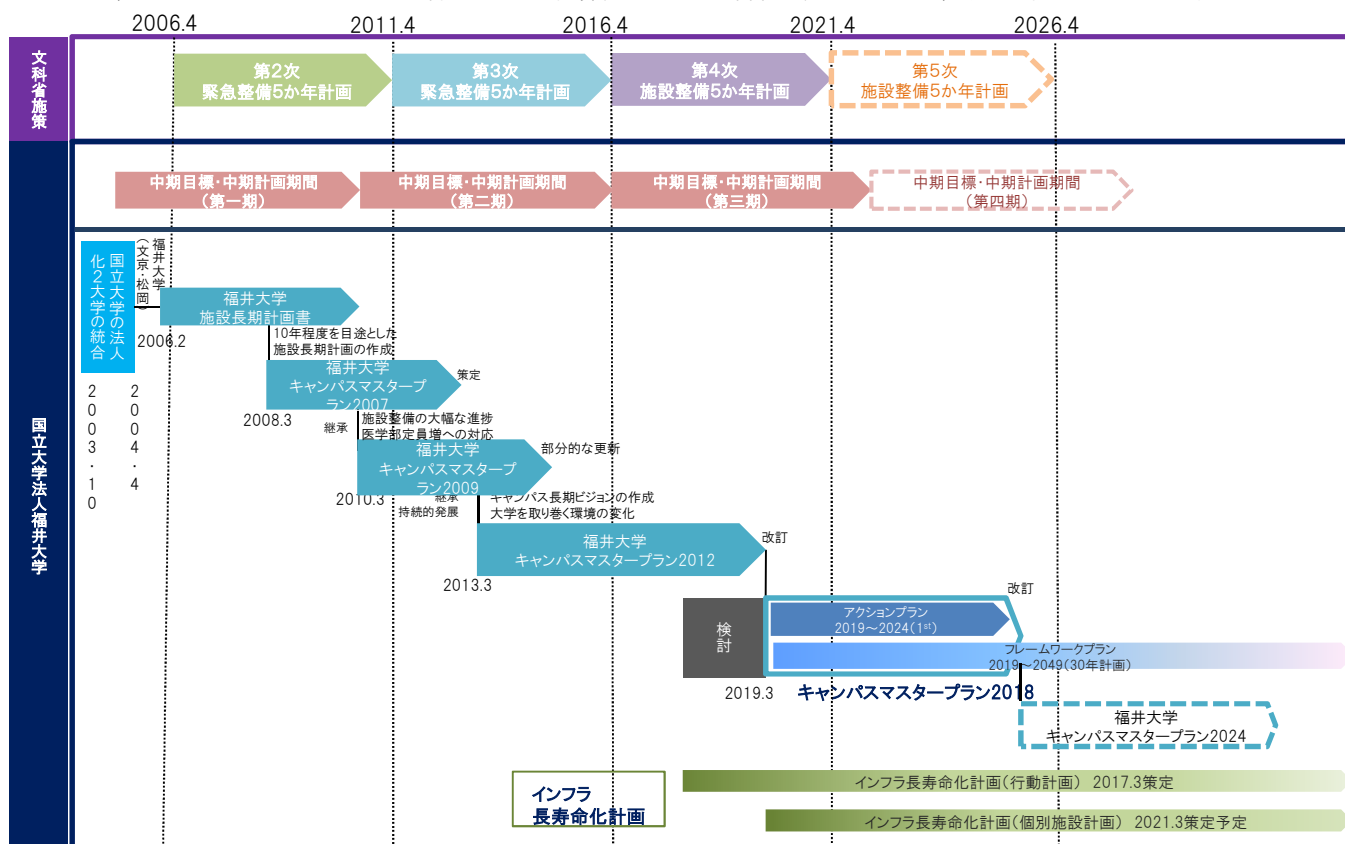
キャンパスの望ましい将来像を描き、今後、本学が具体的に施設整備を進め、整備された施設・設備等を持続的に維持・運用するための基本的な方向を示す『ガイドライン』として「キャンパスマスタープラン2018」を作成する。

現状キャンパスの課題を再整理し、30年～50年後のキャンパスを計画する「キャンパス・フレームワークプラン」および、その実現を図るため、今後6年間の改修・改築などの具体的なキャンパス整備を計画する「キャンパス・アクションプラン」、また、経営的視点から現有施設の有効活用や施設の機能・性能水準を中長期に渡り保つための「戦略的な施設マネジメントの推進」で構成する。

■福井大学と国の施策

「キャンパスマスタープラン2018」では、「第4次国立大学法人等施設整備5か年計画」や本学の「中期目標・中期計画」等をふまえて目標・方針を定めるものとし、さらに、「インフラ長寿命化計画」とも連動した戦略的な施設整備や施設マネジメントを推進する。

また、キャンパスマスタープランの内容については概算要求にかかる評価を受けることから、今回見直しを行っている。



2 「キャンパスマスタープラン2018」の基本目標・基本方針

1)基本目標

- ①「教育」「研究」「医療」等の基盤を支えるサステナブルキャンパス
- ②地域・社会・国際貢献に資する、人が集い、知の交流の場となるグローバルキャンパス
- ③安全・安心で快適なユニバーサルキャンパス

2)基本方針

基本目標を実現するため、以下の基本方針により中長期的な施設整備・維持管理・運用計画を立て、これに基づき整備を進める。

- ①高度化・多様化する教育、研究、医療等に発展的に対応可能なキャンパスづくり
- ②教育の質的転換を踏まえたキャンパスづくり
- ③大学の特色や教育研究成果の情報発信拠点としての大学と、そのためのキャンパスづくり
- ④地域から国際社会まで幅広く貢献できる人材を育むキャンパスづくり
- ⑤福井らしさを感じさせる、個性豊かで魅力ある美しいキャンパスづくり
- ⑥学生・職員や外国人・地域住民等が集い、知の交流を促すキャンパスづくり
- ⑦安全性を優先し、誰もが安心・快適に活動できるユニバーサルキャンパスづくり
- ⑧地球環境保全や健康、QOLに配慮した緑豊かな美しいエコキャンパスづくり
- ⑨戦略的な施設マネジメントの取組の推進

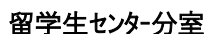
3

る。

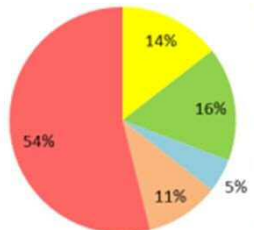
朽。

■

-



文京キャンパス配置図



【保有建物の経年数】

- | | |
|---|---------------------------|
|  | 経年10年以下の建物 |
|  | 経年11年～20年以下の建物 |
|  | 経年21年～30年以下の建物 |
|  | 経年31年～40年以下の建物 |
|  | 経年41年以上の建物 |
|  | 機能改修済み建物の
うち改修後10年以下 |
|  | 機能改修済み建物の
うち改修後11年以上経過 |
|  | 耐震性能が劣る建物 |

■松岡キャンパス(医学部, 附属病院)

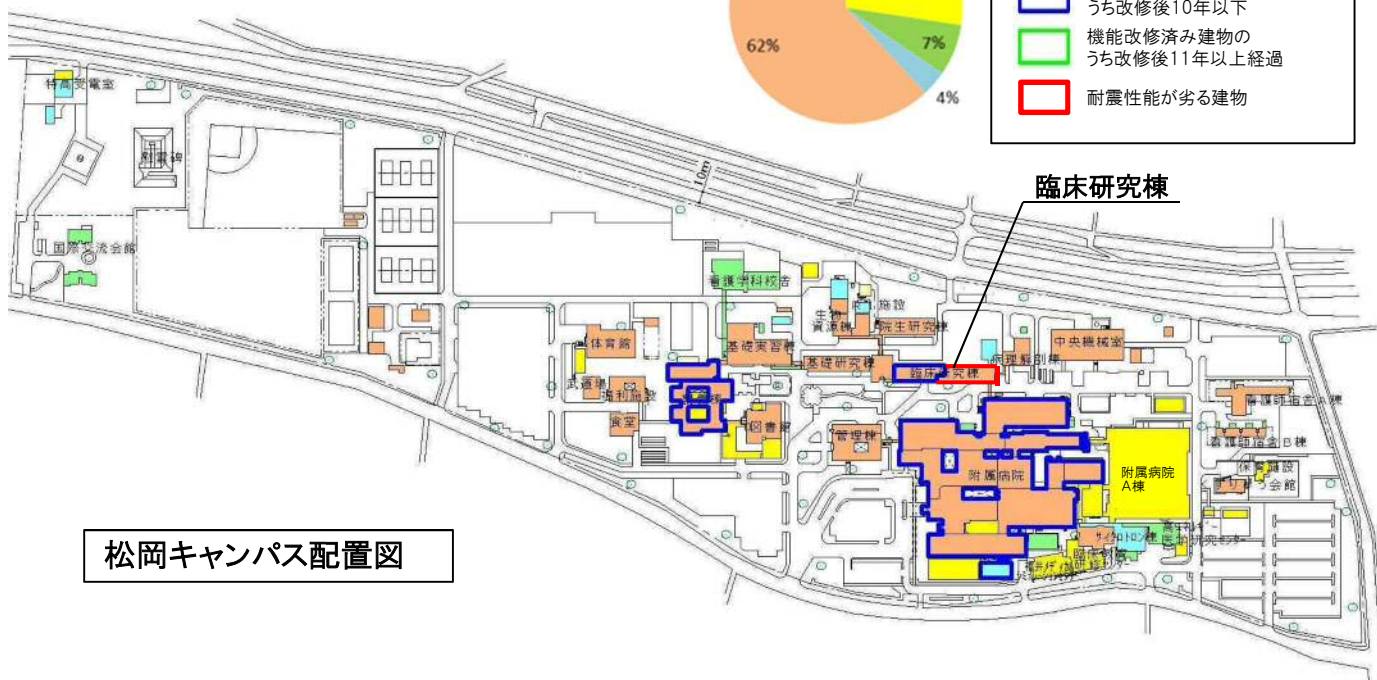
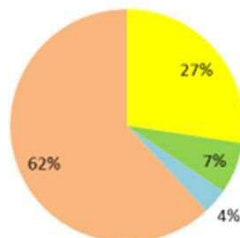
■松岡キャンパスでは、経年30年を超えた建物が全体の62%あり、未改修のものが多くことから、同時期に集中する機能改修にどう対応するかという問題がある

■教育・研究・医療の変化に対応した施設整備が必要である

【保有建物の経年数】

- 経年10年以下の建物
- 経年11～20年以下の建物
- 経年21～30年以下の建物
- 経年31～40年以下の建物
- 経年41年以上の建物
- 機能改修済み建物のうち改修後10年以下
- 機能改修済み建物のうち改修後11年以上経過
- 耐震性能が劣る建物

【経年構成比】



松岡キャンパス配置図

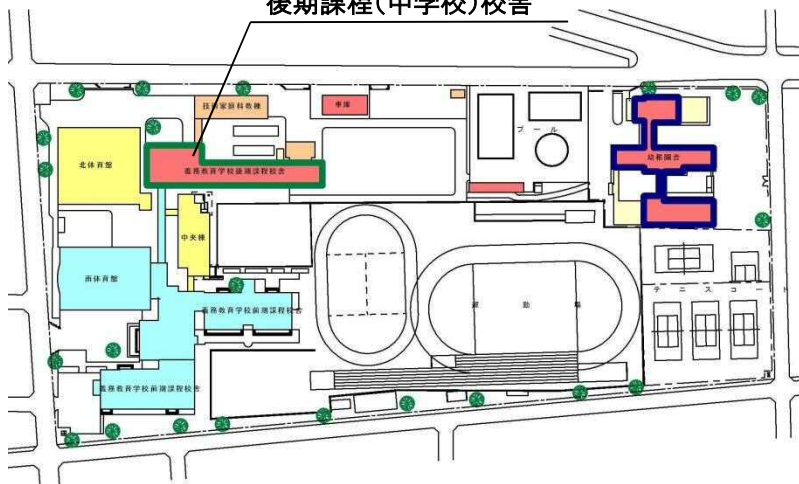
■二の宮キャンパス(附属学園)

■後期課程(中学校)校舎は築55年を経過しており、途中改修が行われたが、その後32年が経過し、老朽化、狭隘化が著しい

■八ツ島キャンパス(附属特別支援学校)

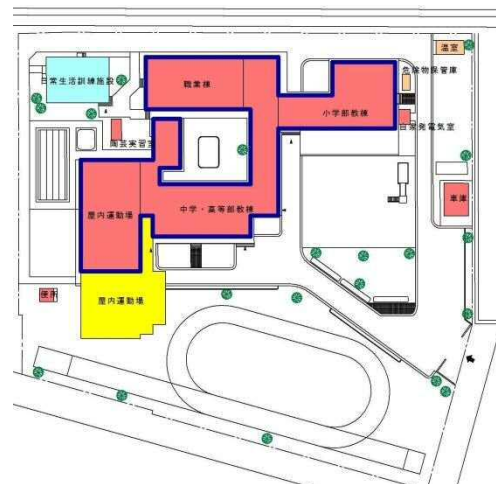
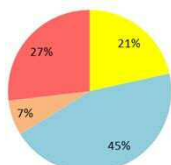
■主な整備(改修, 増築)は終了しているが、経年40年を超える建物が70%を占めている

後期課程(中学校)校舎



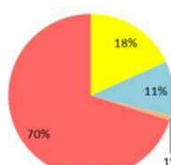
二の宮キャンパス配置図

【経年構成比】



八ツ島キャンパス配置図

【経年構成比】



4. キャンパス・フレームワークプラン ～キャンパス長期ビジョン～ (30年～50年後を見越したキャンパスプラン)

キャンパスを長期的視点から、適切に計画・利用していくために、(1)ゾーニング計画、(2)パブリックスペース計画、(3)動線計画、(4)建物配置計画、(5)サステナブルな環境・建築計画、(6)インフラストラクチャー計画、(7)地域コミュニティ・オン・キャンパス計画、(8)施設・スペース活用計画についてキャンパスの長期ビジョンを策定する。

■長期ビジョンの方針

- ・教育・研究・医療における地域の中核拠点として相応しいキャンパス環境の整備を推進する
- ・産学官連携、地域連携の中核拠点として相応しいキャンパス環境の整備を推進する
- ・魅力のあるキャンパス環境や、多様な交流を促す基盤の整備を推進する
- ・地球環境や省エネルギーに配慮したサステナブルなキャンパス環境の整備を推進する

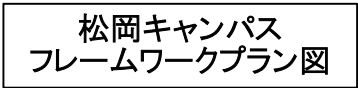
■文京キャンパス

- 「メインストリート」のキャンパスモール(歩行者専用)化
- 外周道路の整備と駐車・駐輪場の集約化
- ゾーン毎の緑地・交流スペースの配置
- 正門周辺に地域交流・地域連携の場を設置
- 地域産業との交流や研究の場を確保し、産学協同を推進
- 景観との調和を図り、地域との交流や癒やしの空間を確保
- 建物高層化・複合化による機能強化と敷地の活用や緑地・広場の確保
- 建物のスカイライン、周辺環境と一体的な美しいランドスケープを計画
- エネルギーマネジメントに対応した設備機器やシステムの導入
- 施設の共有化・集約化により効率的なスペースマネジメントを推進



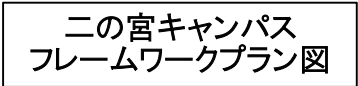
■松岡キャンパス

- 利用(者)に配慮した道路、駐車場の配置
- 附属病院動線の明快化や利便性の向上
- 臨床研究関係施設や病院系教育・研究部門と附属病院の近接配置による機能強化
- 療養環境向上のための緑地・広場の確保
- 患者の利便性と安全性に配慮し、立体駐車場と附属病院の屋内接続を計画
- 建物高層化・複合化による敷地の活用や緑地・広場の確保
- 建物のスカイライン、周辺環境と一体的な美しいランドスケープを計画
- エネルギーマネジメントに対応した設備機器やシステムの導入
- 施設の共有化・集約化により効率的なスペースマネジメントを推進



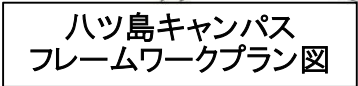
■ 二の宮キャンパス

- 三位一体の教育改革に相応しい施設計画
- 大学と附属学園の緊密な連携の強化
- 連合教職開発研究科の機能強化
- 前期課程教育と後期課程教育の連携強化
- 後期課程校舎のフレキシビリティのある改築計画
- 地域開放に配慮した配置計画



■ハツ島キャンパス

- インクルーシブ教育の拠点となる施設環境の整備
- 特別支援センター機能の強化
- 「生活」と「教育」が一体となる施設環境の整備
- 中庭と「ふよふのもり」との連続的接続
- シンボル「平和の楽園」の壁画の適切な維持



アクションプラン策定の基本要素

■施設整備計画

- ・国土強靱化等の国策に沿った整備
- ・最新の機能等を付加した施設のリノベーション再生
- ・キャンパスアメニティの保全と向上

■環境整備計画

- ・学内構成員のQOL向上
- ・安全なキャンパス環境の整備
- ・学生や職員、地域のコミュニティ拠点の整備

■エコ改修計画

- ・省エネルギー・省CO₂・省コストの推進
- ・インフラ長寿命化計画とリンクした整備
- ・エネルギー地産地消の推進
- ・スマートキャンパスの実現

■施設整備の方針(3章の現状と課題をふまえて)

- ・「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」等の国策に沿った施設整備により、安全・安心なキャンパス環境の整備を推進する
- ・老朽、機能劣化した施設のリノベーションを進め、教育・研究・医療等の質の向上を図る
- ・省エネルギー・省コストに優れた施設の整備を推進する

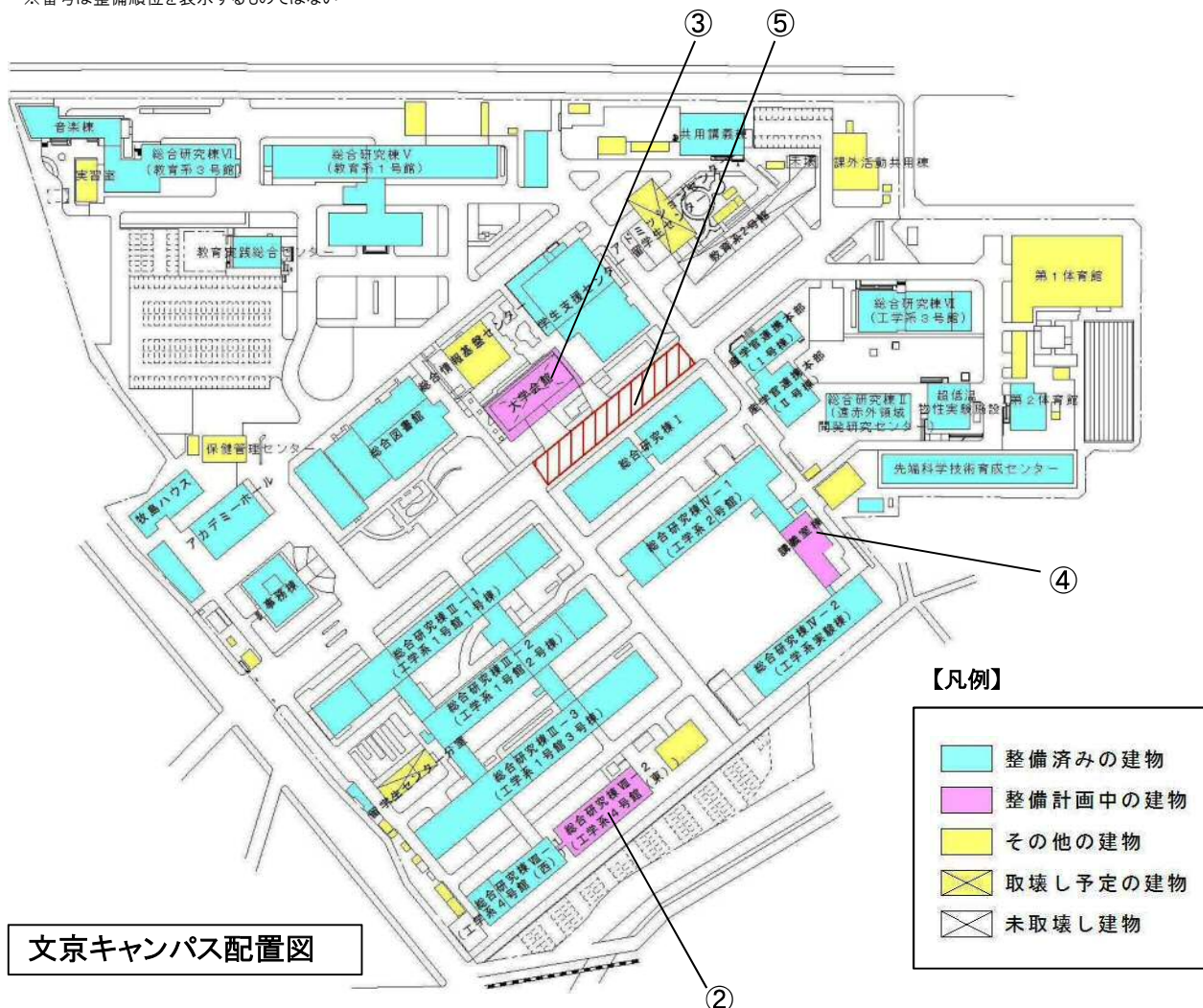
■文京キャンパス(教育学部、工学部、国際地域学部等)

- ・「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」等の国策に沿い、耐震対策(改築整備)、ライフラインの整備を推進する
- ・老朽、機能劣化した施設のリノベーションを図る

【整備計画】

- ①ライフライン再生(排水設備)等
- ②工学系4号館(東)改修(老朽)
- ③国際センター(アドミッションセンター・留学生センター、大学会館等)改築
- ④講義室棟改修
- ⑤メインストリート(キャンパスモール)の整備

※番号は整備順位を表示するものではない



■松岡キャンパス(医学部, 附属病院)

- ・「防災・減災, 国土強靱化のための3か年緊急対策」等の国策に沿い, 耐震対策(改修整備), ライフラインの整備を推進する
- ・老朽, 機能劣化した施設のリノベーションを図る

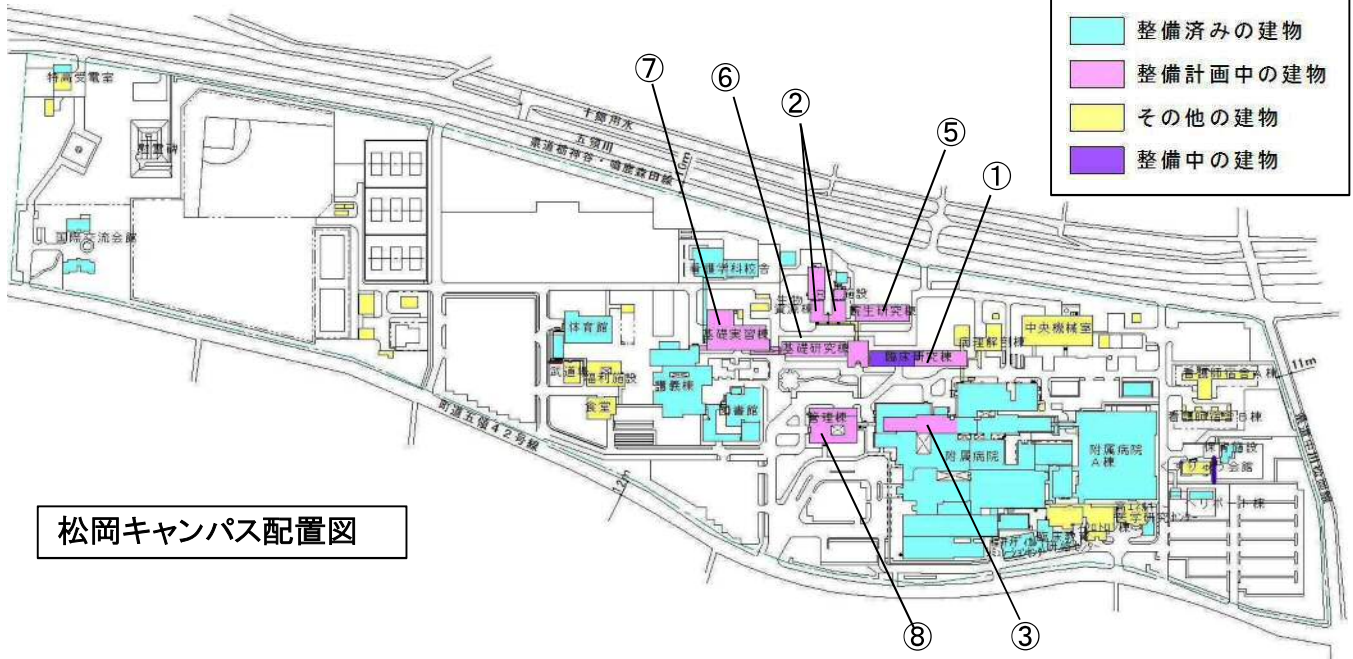
【整備計画】

- ①臨床研究棟改修(耐震・機能)・・・一部整備中
- ②生物資源棟改修(機能)・RI施設改修
- ③旧西病棟改修(機能)による教育・研究スペースの確保
- ④ライフライン再生(給排水設備)等
- ⑤院生研究棟改修(機能)
- ⑥基礎研究棟改修(機能)
- ⑦基礎実習棟改修(機能)
- ⑧管理棟改修(機能)

※番号は整備順位を表示するものではない

【凡例】

- 整備済みの建物
- 整備計画中の建物
- その他の建物
- 整備中の建物



松岡キャンパス配置図

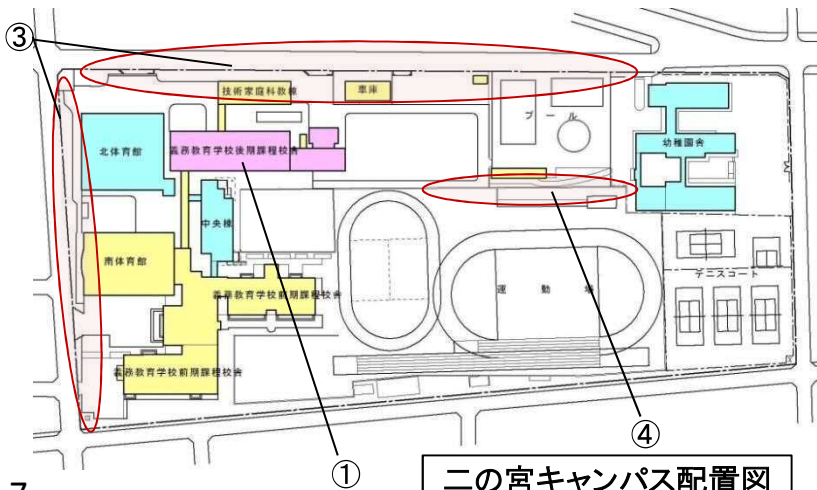
■二の宮キャンパス(附属学園)

- ・狭隘・老朽の著しい建物を改築整備し, 教育機能の向上を図る
- ・「防災・減災, 国土強靱化のための3か年緊急対策」等の国策に沿い, 耐震対策(改修整備), ライフラインの整備を推進する
- ・園児, 児童, 生徒の安全を確保する

【整備計画】

- ①後期課程校舎改築・改修
- ②ライフライン再生(給排水・ガス設備)等
- ③通学歩道の確保
- ④構内連絡通路の整備

※番号は整備順位を表示するものではない



二の宮キャンパス配置図

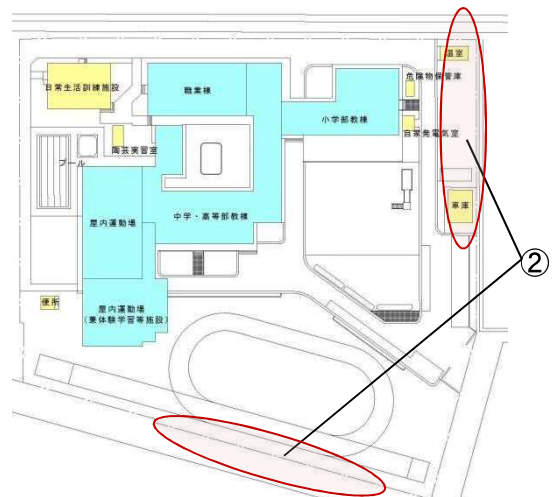
■ハツ島キャンパス(附属特別支援学校)

- ・「防災・減災, 国土強靱化のための3か年緊急対策」等の国策に沿い, 耐震対策(改修整備), ライフラインの整備を推進する
- ・児童, 生徒の安全を確保する

【整備計画】

- ①ライフライン再生(給排水設備)
- ②駐車場及び基幹・環境整備

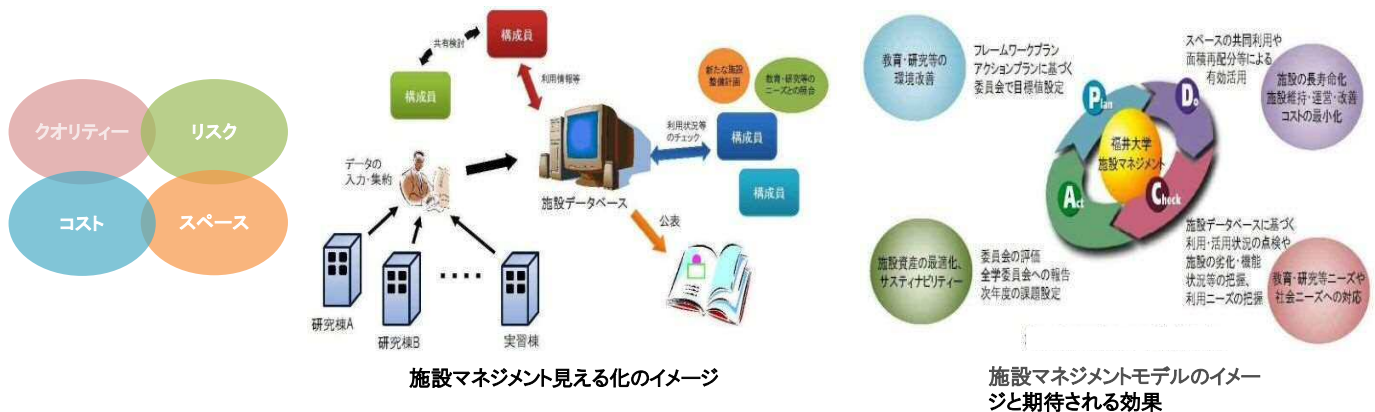
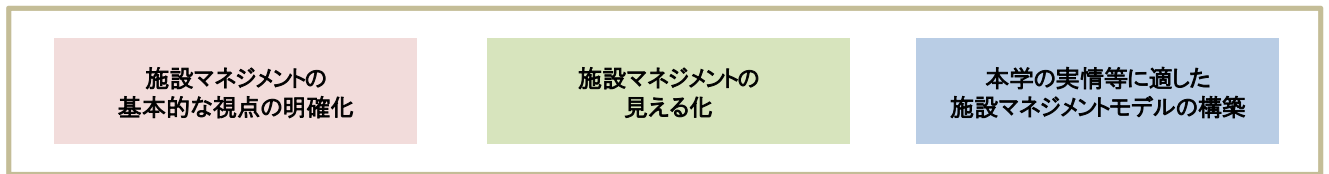
※番号は整備順位を表示するものではない



ハツ島キャンパス配置図

6. 戦略的な施設マネジメントの推進

- キャンパスや施設を教育・研究・医療・社会貢献等の活動に効率的に利用・活用
- スペースマネジメントに取り組み、利用ニーズに応じてスペースを適切に再配分
- 予防保全により、施設の機能・環境を一定水準以上に保持
- 福井における知の拠点にふさわしい施設環境を持続・運用し、また新たなニーズ等に対応する施設整備
- 施設整備等の財源確保や、施設の長寿命化・コストの平準化の推進



【施設マネジメントの具体的な取り組み】

■施設の利用・活用状況調査

効果的なマネジメントの実践のため、ニーズの把握や利活用状況等の現状把握を行い、データベース化する。

■建物管理情報の一元化

建物のデータベースを用い、キャンパス全体でバランスの良い施設管理・運営業務を行う。

■エネルギーマネジメント

エコキャンパスを実現するため、ESCO事業、エネルギーの地産地消、BEMS(Building and Energy Management System)等を計画する。

■施設整備の優先順位

営繕要求事業の評価等により、整備優先順位を明確化する。

■スペースマネジメント

ニーズ・動向に合わせてスペースの集約・統合や再配分を行う。

■外部組織との協議・連携

地方自治体、産学連携による施設活用や借用による維持費の軽減等を推進する。

・施設整備等の財源確保

■多様な財源の活用

各種補助金等の活用による施設整備の実施(実績として「二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金」,「県内大学等留学生宿舍整備事業補助金」がある)

■エネルギーマネジメントの推進

省エネルギー効果が期待できるESCO事業や建物のZEB化(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)等の取り組みを推進(実績として「管理一体型ESCO事業」がある)

■エコ改修事業

「ESCO事業」及び省エネ改修により削減された光熱水費を、新たな省エネルギー施策に再投資できる循環予算制度「エコ改修制度」の継続

■資産(土地・建物)の活用

民間のノウハウ等を活用し再評価・見直しを行い、投資および活用効果が最大化する戦略を大学経営に活用することを検討

■施設の長寿命化・コストの平準化

「インフラ長寿命化計画」に基づく施設の長寿命化の取り組みを推進

■予防保全の導入

不測の故障や不具合を未然に防止し、施設の安定的な利用を図るため、「事後保全」から計画的な「予防保全」への移行を推進

